

海老名市立柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録 (令和6年度 第2回)

1 日時	令和6年11月22日（金）11：40～12：40
2 場所	海老名市立柏ヶ谷小学校 会議室
3 出席委員	山崎久男会長、大矢和正委員、森田博明委員、中垣洋委員、羽太勇委員、松本孝夫委員、齊藤裕子委員、國次千絵委員、石井友紀（校長）、高橋一子（教頭）、青山明裕（教務主任）

10：30～【音楽会参観】第2部（2.4.6年生）
11：40～【協議】（1）令和7年度に向けて
・学校の様子と課題
・グランドデザイン（案）について
（2）学校評価アンケートについて
（3）その他

4 協議の内容（進行：山崎会長）

石井校長：2学期は運動会と音楽会という二つの大きな行事に向けて取り組みを進め、成長してきたが、落ち着かない学級への対応など、課題もある。縦割り活動では思いやりや憧れの気持ちの芽生え、仲間とのトラブルなど、さまざまな学びの経験を重ねている。完全不登校の児童は数名。別室登校支援の「ぽかぽかルーム」を利用している児童も数名おり、さらに需要が増える傾向だが、それに従って課題も出てきている。

次年度の学校経営方針については、次の2点を重点と考えている。一点目は「相互理解を深める集団活動の充実」。子どもたちが将来の共生社会をつくる担い手となるためには、相手を理解することが重要である。さまざまな人を知ることで関わり方を学び、多様な考えを活かしていくことでよりよい集団が作れるということを実感してほしい。二点目は、「教科担任制・学年担任制の導入」。これにより、多面的な児童理解、中1ギャップの克服、授業力向上・学力向上、学級経営力の向上など、多くのメリットがあると考えている。ご意見をお聞かせいただきたい。

大矢委員：教科担任制・学年担任制の導入では、先生の増員なども含め、中学校のようなイメージにしていくのか。

石井校長：今の制度のまま、できる範囲で実施する。

山崎会長：一つの学年内の担任だけでなく、例えば、5年生と6年生の先生で交換するなど、いろいろな方法をとる学校がある。

松本委員：何年生ぐらいからやるのか。

石井校長：1・2年生は学級担任制を残し、3・4年生から少しづつ教科交換をし、5・

6年生でさらに広がるイメージである。

松本委員：学級数が少ないので、人事配置が難しい。

石井校長：教員一人ひとりの得意不得意を相談しながら配置する。

松本委員：音楽会は、子どもたちの動きにメリハリがあつてよかつた。始まりの合図を出すとちゃんと準備ができて、けじめがついてきているのだなと感じた。音楽会は、毎年感激する。

齊藤委員：教科交換については、既に先行実施が始まっている。子どもたちは、6年生の道徳を5年生の先生が行う交換授業がすごく楽しみなようだ。他学年の先生方に話しかける機会も増えたようで、子どもたちの期待が大きく、いい取り組みだと思う。音楽会は、いつも見ている子どもたちとは顔つきもまるで違った。「自分たちは、やる時はできる」と言っていた。

山崎会長：「中1ギャップ」について、不登校が社会問題化されてきた時に、中学進学とともに学校へ行けなくなる子どもが増えるという現象があった。小学校は学級担任制だが、中学に行くと突然大勢の先生に学ぶ。そこで戸惑いが出て、学習についていけない子が出てくる。さらに、複数の小学校から子どもたちが来るので、人間関係づくりがなかなかできない、心を許せる友だちが見つからないということで、不登校生徒がぐっと増える傾向があった。その解決のため、小学校では、教科担任制の準備段階として教科を複数の先生で担当し、あまりギャップがないような形にした。他にも中学校の先生に小学校で授業をしてもらう、6年生が中学校に行って授業を見たり参加したりするなどの取組がある。日頃から小学校と中学校が交流を深め、子ども同士が分かり合えるような場を作ったり、教員同士で情報交換をしたりしている。

中垣委員：教科担任制・学年担任制は良いことだと思う。低学年のうちは一人の先生がみて、学年が上がってきたりいろいろな方が教える。先生にも個性があるので、いろいろな先生を見るというのは非常にいいことだと思う。音楽会は一生懸命練習した成果を見せてもらった。運動会についてだが、我々が座っていた「来賓席」は後ろにして、保護者が優先で見られるようにしてほしい。また、運動会では何か賞品などを渡しているのか知りたい。

青山教務：過去には参加賞としてノートを配付していたが、今はない。

中垣委員：頑張った人には頑張ったなりの賞品があった方がいいと思う。予算の問題であれば、自治会も地域の活動で関わっているので、頑張りに対する賞をあげたい。

山崎会長：運動会の来賓席について意見があった。保護者の「前で見たい」という気持ちを理解しなくてはいけないと思う。また、保護者や観覧者は椅子を使わないようにとのことだったが、椅子がないと長い間見ていられない。地域社会と学校との深い相互理解につながってくるので、そういう視点も視野に入れておいていただけるとありがたい。

松本委員：賞品の件は、教育長や市の教育委員会の方針があるのか。

山崎会長：「みんな頑張ったのだから、賞品で励まさなくてもいいのではないか」というような風潮もなくはない。

國次委員：順位がつくような徒競走やリレーなどを一切やらないという学校も増えてきているようだ。そういう考え方が主流になってきているのか。成績やスポーツの世界では順位がついていくのに、なぜ小学校は順位をつけないということにこだわるのか、すごく不思議に思っている。

山崎会長：これは40年くらい前から出ている話題である。学校の工夫としては、背の順に走るのではなく事前にタイムを計り、同じような速さの人と走らせるという方法をとっている学校が多いのではないか。

議会だよりを見ると、フルインクルーシブ教育についての質問が出ていた。学校や授業をどうしていけばよいか検討していかなければならぬ。

石井校長：これから学校の在り方について、教育委員会と協議をすすめている。

山崎会長：別の議員が、中学校の部活について質問していて、教育長が放課後の活動を応援したいと述べている。何か小学校で取り組んでいるか。

齊藤委員：「あそびっこ」は、教育長の思いで始まった事業。柏ヶ谷小は参加率が高いが、他校では誰も来ない日もある。続けていくことに疑問を感じているパートナーもいる。やり方がそれぞれの学校なりでよいというのがすごく難しい。今後、小学校の教育全体もそうなっていくのか心配している。数年前までは、「絶対リレーの選手になりたいから練習する」と言っていた子どもたちが、「頑張つたら格好悪い」「休み時間に練習したくないから速いけど希望しない」と言っている。児童の考え方が変わってきていて、衝撃を受けている。子どもが「どうでもいい」という感じになっている気がする中、先生方がこういう考え方やっていこうとしているのは素晴らしいが、大変だろうと思う。共稼ぎの家庭が多いので、放課後の子どもの居場所づくりは大事にしたい。

中垣委員：海老名市民祭りで自治会のブースを開き、小学生以下の子どもにゲームをしてもらった。その時の保護者アンケートに、地域の活動に参加することが楽しみだ、子どもの遊びに関するサークルや調理教室などに参加したいとの声があった。何かあったら手伝いたいという記述もあり、我々が思うよりも、保護者は地域や学校の活動に興味はあるのだと思った。ただ、その興味のある方を探せない、誰がそうなのかよく分からぬということなのだと思う。自治会のイベントも子どもメインの活動になってきていて、カレーの昼食会・もちつき大会など、たくさんの参加がある。

山崎会長：以前PTA活動についての話も出していたが、こういったアンケート等を参考にしながら考えてみるのも一つの方法ではないか。

國次委員：前回の報告後、いろいろなことが進んだ。PTA臨時総会を書面開催し、その後年度のPTA加入同意書を配付したところ、7割程度の加入になりそうである。来年度から、毎年加入の意志確認をする。本部以外の委員会を全部廃止し、必要なものはボランティアを募る。卒業や入学の記念品は全て廃止し、柏小まつりは学校主催で実施。こうなると、PTAに入る意義は何なのかという課題に直面する。学校に関わる保護者が激減するだろう。自分の子どもに対する関心は高く、授業参観やイベントへの参加率は高いが、登校班や立哨当番な

ど、子どもの安全に関わるものであっても否定的な意見も多い。今日の音楽発表会を見ていて、一体感のある素晴らしい演奏で胸を打たれる一方、保護者も子どもたちのように一体感をもてたらいいと思った。

大矢委員：運動会は、予定があつて来られなかつた。来年も秋の土曜日開催か。

青山教務：土曜日で検討しているが、日程は11月への移行を考えている。

大矢委員：春にやつている学校もある。

青山教務：春は春で暑さに慣れていないという体の状態があるので、いつそのこと11月にやってみようという話になつてゐる。

石井校長：運動会は、コロナ禍に半日の実施となつた。現在もそのまま半日開催が続いている。

國次委員：家族でお弁当を食べての丸一日がかりの運動会がいいとも思うが、一方、お弁当を作らないことや席取りをしないことの良さも多く聞く。

森田委員：音楽会素晴らしかつた。最初に全体合唱があつたが、今までフニャフニヤした子どもたちが急にちゃんとして、大きな声でお腹の底から声を張り上げる姿を見て感動した。本当に素晴らしい。子どもたちが日々成長し今日みたいな成果を出してくれると、見ていて私たちも本当に感動する。一人でも多くの人に見ていただきたい。

山崎会長：このような素晴らしい演奏を、例えば、地域に公開するというのは難しいか。学校から縁が遠くなつた人も見ることができるとよい。

石井校長：あそびっこのパートナーさん、立哨をしてくださつてゐるシニアクラブの皆様方も招待すればよかつたと思っている。

山崎会長：大勢の人に見てもらえたなら、もっと学校を理解してもらえ、子どもたちの励みになると思う。

石井校長：議題の「学校評価」については、今年から紙ではなくインターネットを使って回答できる形に変えた。内容は、次の提案としたい。

5 事務連絡

青山教務：次回は2月22日土曜日10時からを予定している。

以上